

第 72 号

発行所 〒157-8560
東京都世田谷区成城1-13-1
東京都大学附属中学校・高等学校内
電話 03-3415-0104

発行責任者 安藤 友二
編集責任者 川鍋 勝弘



東京都大学附属中学校・高等学校〈同窓会ホームページ〉
<http://tcu-kasiwa.org/>



キャリアスタディ2020を振り返って

進路部 相馬 武



同窓会のご協力のもと、本校のキャリアスタディも12年目を迎えました。小泉達雄委員長はじめ同窓会の多くの皆さまに大変なご苦勞をいただきながら、年々内容の充実が図られています。心より御礼申し上げます。

今年度のキャリアスタディはコロナ禍で休校措置を続ける中での準備となりました。振り返ると、「スタート集会」、「業あり先生」、「企業研修」... 段階を踏んで進めるプログラムの目的や意義を改めて議論しながら、常にギリギリまで粘って実施可否の判断をとってきたように思います。残念ながら、中3生が最も楽しみにしていた「企業研修」については、感染防止を理由に実施を見送る判断を致しましたが、コロナ禍を乗り越えた際には改めて生徒の受け入れを各企業様をお願いしたいと思っております。どうぞよろしく願いたします。

私自身は、キャリアスタディの担当者として、企画運営と調整を担う立場として関わらせていただきましたが、同窓会の皆様の熱意に1年間ずっと導かれ続けてきました。その熱意は、月1回の定例会議のみならず、「業あり先生」や「先輩に聞いてみよう63(新企画)」の講演でも然り、講演者と生徒を繋ぐ「質問シート」でも然り。溢れ出る同窓会の皆様の熱意に、私自身も心を動かされキャリアスタディにどんどん引き込まれていった1年となりました。

職場体験の取り組みは公立私立を問わず多くの中学校で実施されておりますが、同窓会の積極的な関与で進めていく本校の形態は全国的にもかなり珍しいことです。キャリアスタディに関心を寄せる受験生の保護者も年々増えており、本校に関わる多くの人々に認知される取り組みとなっています。今や、キャリアスタディは本校の教育を支える大きな柱のひとつであります。

思春期を迎える中3生に「保護者」と「教員」、そして「同窓会の先輩」も加わって、多くの大人が関わりながら生徒の成長を皆で見守る——そんな形でキャリアスタディを更に充実させていくことができたなら素晴らしいのではないかと考えております。今後とも同窓会の皆様の熱いご支援をよろしく願いたします。

中3担任 齋藤 貴士



今年度は新型コロナウイルスの影響を受け、例年のプログラムから変更を余儀なくされました。年度当初から企業研修の不実施が決定し、どうなるかを心配しながらの船出でありました。しかし、キャリアスタディ委員の方々を筆頭に綿密に打ち合わせをしていく中で、「限られた時間の中で今の中学生に

何を伝えられるか」を話し合っていく、具体的なプログラムを少しずつ構築することができました。ここまで形がつくられ、本年度のプログラムが成功したことは、キャリアスタディをはじめ、OBの方々からお力添えをいただいたお陰であります。学年担任一同、感謝の念に堪えません。

この一年を通じて子どもたちにも変化が見られました。

中学3年がはじまってすぐのことです。自己紹介カードを書くことがありました。その中に「将来どのようなことをしていきたいか」というアンケートを、学年の先生で話し合い、設けました。結果は無記入がほとんど。明確なビジョンを描けていない様子でした。この結果は、まだ14歳の子どもにとっては当然の結果であったと思います。ただ、このアンケートを機会に、子どもたちが少しずつ将来について考えてもらいたいと、学年の先生たちは考えていました。

それ以降、学年集会や道徳の授業の時間を使って、将来を意識するような話を指導の中で増やしていきました。それもあってか、個人差はあるもの子どもたちも意識が少しずつ変わってきたように感じます。担任の先生と面談をする中で、将来についての話も出てくるようになりました。

「業あり先生」や「先輩に聞いてみよう63」でも、子どもたちの様子から意識の変化がみられました。講演をしてくれる先生やOBの方のお話を、熱心にメモをして聞いている姿がそこにありました。今後の人生でどのようなことが必要か、自分の将来にどのように関わってくるか。少しでも受け止めようとする子が増えたように感じました。

キャリアスタディの意義には、大人との関わり合いもあります。

子どもたちは家族や学校等の先生以外で大人と接する機会はほとんどありません。実際、学校の先生などの見慣れた大人以外の人に自分から積極的に発言をすることができない様子がしばしばみられます。また話し方などの対応が苦手な子どももいます。

昨今、核家族化や地域のつながりの希薄化などを背景に、社会における絆の必要性が叫ばれています。学校教育においても同様で、今後においては家庭、学校、地域が一体となり、役割を分担しながら相互に補いあい、それぞれの教育力を充実させる力が求められています。この状況の中で、本校は何が出来るか。私はOBとのつながりを大切にしたいキャリアスタディという取り組みが、子どもたちにとって普段の学校生活で経験ができないような場になると思います。

キャリアスタディは、単に自分の将来を考えるだけのものではなく、プログラム全体を通して、自分を理解し、自身を大きく成長させることも大きな目的です。挨拶をすること、感謝をすること、相手の立場になって考えることの大切さを理解することができたのであれば、また一歩大きく成長できたのではと思います。物事に真剣に取り組み、努力すれば必ず何かを得ることができ、その努力は人生においてかけがえないものになっていくと思います。そのような機会に恵まれるということは本当に幸せなことです。このキャリア・スタディがこれからもより良く発展していくことを願っています。

先輩に聞いてみよう63

キャリアスタディ委員長 小泉 達雄

本年度は新型コロナウイルスの影響により、学校の様々な行事が変更となり、キャリアスタディのプログラムのハイライトである企業研修も中止を余儀なくされる事となりました。

そこで、企業研修の代わりに企画の検討をキャリアスタディ委員と学校側で重ね、「先輩に聞いてみよう63」というプログラムを12人のOBのサポートによって開催する事となりました。

この企画は、単に講義の話を聞くだけでなく、生徒が先輩に聞いてみたい事を対話するスタイルにするのが狙いで、また本年度の中学3年生は63期生である事からこのようなタイトルに決まりました。

実際の働く現場を体験する機会は持てなかったのは残念であった一方で、生徒にとってのホームである教室での開催であったため、リラックスしながらも集中して話を聞いていた印象です。

プログラムの振り返りの場では、本活動の更なる発展に対して熱い議論が交わされました。また、生徒からの感想も貴重なフィードバックとなっており、以下に代表的な感想文を紹介させていただきます。

9期生 鈴木 威一 先輩

株式会社 エグゼック 取締役会長

演題：海外でいっぱい仕事をして、良かったこと、悪かったこと



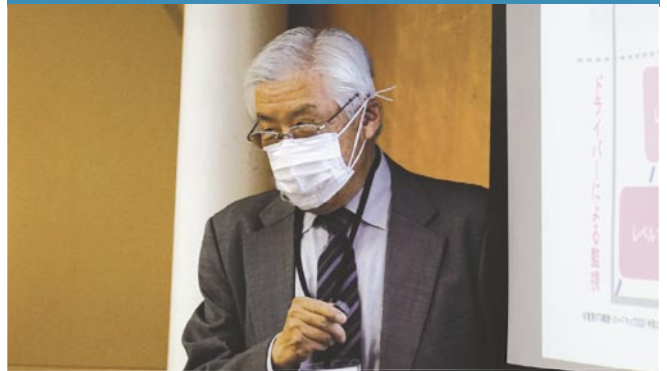
生徒の感想：

受験英語は、仕事に直結しているかと思っていたが、仕事では広い知識や技能が問われていることがわかった。仕事とは何か。人生は何の為にあるかなどあまり意識したことはなかったが、人の役に立って喜んでもらうという考え方はとても納得できる考え方だったので、今後ともそのように考えて日々の生活などにも活かしていきたい。過去の財産や自分の得意なことは後々も大切にしていくことが大切だということも共感し印象に残った。相手の人に喜んでもらうようにすると同時に自分も楽しんで仕事をしているという姿勢を見習いたいと思った。

16期生 小林 英世 先輩

株式会社 交文社 代表取締役社長

演題：自動運転の社会ってどんなの？



生徒の感想：

自動運転と聞いて、自動車が勝手に走るだけと思っていたが、講義を聞き自動運転にも色々な段階があることを知った。運転が自動になることで免許がどこまで必要になるのかという事では、そもそも人が車を持つ意味があるのかと考えた。社会の中で自動運転がどういう所にあり、どのような利用ができるかを考える必要があると感じた。

個人の為の自動運転だけでなく、物流やサービスといった人同士が関わるものに自動運転が組み込まれるのは新鮮だし、だからこそ安全が求められると考えた。

この講義を通し、将来、自動運転車を使う可能性のある私達が真剣に考えなくてはならないと改めて思った。

22期生 小泉 達雄 先輩

株式会社 アストロノーツ 代表取締役

演題：危機管理について、戦後の日本とこれからの課題、エンジニアとは



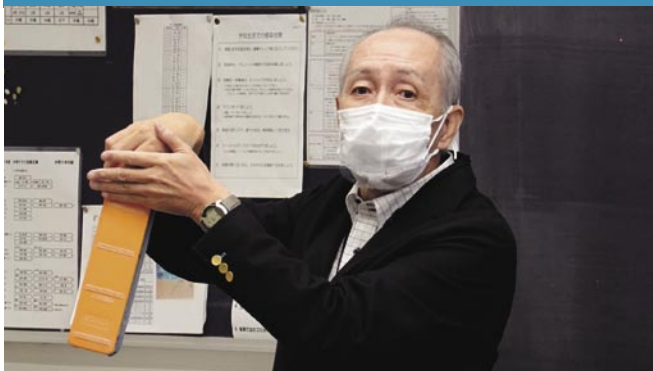
生徒の感想：

“危機管理とは最悪の事態を想定して積極的な対応をすること。”という話は私にとって革新的だった。

日本政府の新型感染症対策を例に挙げた話も分かり易かった。“株で会社を見るようになってから日本経済が低迷した”という言葉も大切だと思った。欲を言えばもう少し経営や会社の資産運用について聞きたかった所ではある。小泉氏の話は内容が濃く量も多いため、あと2時間ほど時間が欲しい所であった。

22期生 蒲生 政和 先輩

キャリアコンサルタント・キャリアデザイン講師・ICTアドバイザー

演題：システムエンジニア<IT業界で働く>への道!!**生徒の感想：**

僕は蒲生先輩の話聞いて、あきらめない事と仕事のやりがいの大切さというものを学びました。まず、あきらめない事とは、目標へ向かうための道のりを行う上で上手くいく時もあれば失敗する時もある、そこであきらめてしまっただけで諦めず頑張る仕事なんておもしろくないだろうという事です。そして、やりがいの大切さは興味のある事を調べておもしろいと思った事をやるべきだということ自分でやって楽しい上に、人の役にもたてるという良い流れが作れるということでした。最後に、どんな職業でも将来的に英語が必要になってくるということを知りました。

22期生 山下 博一 先輩

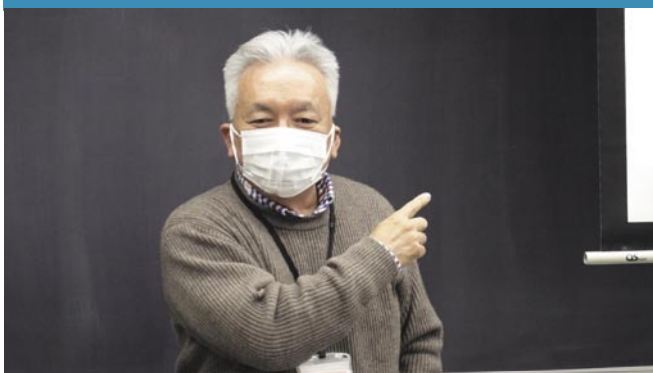
NHKグローバルメディアサービス スポーツ事業部 統括部長

演題：放送メディアとスポーツ ～オリンピック方法の仕組み～**生徒の感想：**

僕は、お話を聞いてオリンピック放送は、複雑なしくみで作られているということが分かりました。国際映像とJCという言葉が学べることができて、とても勉強になりました。また、山下さんのお話を聞いて、今の環境は、とてもめぐまれているのだと分かりました。これから生きていく上で、凡事徹底、細心大胆を意識して生きていこうと思いました。

22期生 矢崎 克実 先輩

有限会社あおい運輸、トップアローズ株式会社 代表取締役

演題：出会った「仕事」を好きになる。**生徒の感想：**

自分が勉強しているのは周りの人に支えられていて、働くとは、勉強する人を支えるということを知りました。年収30万円以下の方が全人口の72%を占めると知り、社会に恩返しをするために、自分が好きな仕事を選ぶことよりも、自分が出会った仕事に全力で取り組む大切さに気づきました。また、自分が会ったことのない人に支えられているからには、やる気が出ない時や、誘惑に負けそうな時に、今日の話思い出そうと思います。自分で挑戦し、リスク、責任を取ることが、成功につながる。

22期生 福田 光秋 先輩

日産工機株式会社 総務人事部 採用担当主管

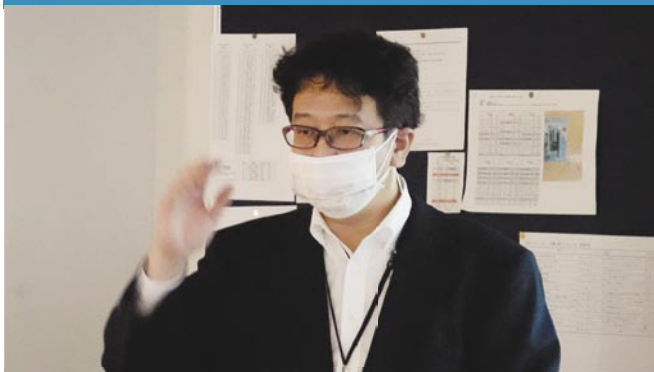
演題：自動車業界と会社紹介。なぜこの世界に飛び込んだか！**生徒の感想：**

・今、興味を持っていることをよく見つめて、自分の人生にとって、目標にとって重要なものは何なのかよく見つめ、今後の自分の人生、将来をしっかりと考えていきたいと思った。
・視覚的に理解しやすいように動画や実演などをしてくれたので、とても分かりやすかった。また、自分の興味のあることを仕事にしたいと考え、高校受験をしていたことにおどろいた。僕も、もっと成長していきたいと思った。

33期生 立野 慶 先輩

医療法人社団ユニメディコ 理事長 医師

演題：医師になるためには？

**生徒の感想：**

今回のお話では医師になるために必要なこと、例えば心がまえなど大切なことを学びましたが、それ以上に人間として必要なこと、これからの自分の人生で生きていくことを学びました。正直、今回のこの授業で自分に足りないことが分かり、また、何をすべきなのかも全てわかり、とてもスッキリしました。特に「強い意志を持つ」「イメージしたものを口に出す」「理由を最後まで考える」という言葉はすごく重く自分の中で印象に残り、今すぐから先生の生き方と同じ道を歩みたいとも思いました。これから自分の進路は、はっきりとは分かりませんが、この授業で学んだことを忘れずに生きていきたいです。ありがとうございました。

37期生 木下 弘 先輩

ドゥカティジャパン株式会社 アフターセールス部エリアマネージャ

演題：ユニークになる

**生徒の感想：**

今回の講義でとても良いことが学べたと思っています。それは2つあって、ドゥカティジャパンやバイク、イタリアの歴史などと、今すべきことと考えるべきことで、自分は特に、2つ目の今すべきことについて、かんめいを受けました。スライドであった氷山の一角のイラストで今は見えない部分を増やすことや、三つの円の職についてのやつで、出来ること、好きなこと、お金になること、の円のエリアを大きくすること、英語をがんばった方がいいことです。

とてもモチベーションが上がったしもっとユニークに生きようと思いました。

37期生 黒田 健一 先輩

清水建設株式会社 設計本部企画管理部主査

演題：あなたはあなたの歩んできたものでできている

**生徒の感想：**

自分の将来が不透明の中でどうしようかなと思っていた時、先生の話聞いて将来の事が決まっていなくても目の前の事を全力で取り組んできた事が将来どういう形か分からないが役に立っているという話を聞いて、今日目標が無かったとしても、目の前の事に全力で取り組み、失敗を恐れない事が今の自分に必要不可欠になってくるのではないかと思います。そのためにも、今できることや得ることの出来るチャンスが無駄にする事なく、挑戦していきたいと思うし、自分では出来ないような事があっても、自分の仲間聞くなどして、自分のベストを尽くせるように今から様々な経験をしていきたいなと思いました。今回は貴重なお話や人生に関わるお話を聞く機会を作ってくれてありがとうございました。

37期生 中村 徹 先輩

一般財団法人 道路新産業開発機構

演題：仕事、勉強、これらは何のため？

**生徒の感想：**

ITSに関する話を聞いてみて、ITS サービスは渋滞などの交通情報を伝えたり、利用者の情報から事故を減らすことにつながるということを知り、とても便利なシステムだと思った。しかし、日本では高速道路にしか導入されていないのはもったいないので、外国の先進的なシステムを取り入れた方がもっと快適になると考えた。また、仕事をする上で最も大切なことは人とのつながりをもつことだということを知った。

今やっておいた方がよいこととして、勉強の意味・目的を知ること、まず自分で考えること、夢・目標を決めることだということをお話を聞いたので、それらのことを今の自分の生活や学習に活かせるよう意識していきたい。